

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和5年11月2日(木)

みんなの居場所

経験則⑥「本当の友だちとは」#1

私には親友と呼べる友達は2人しかいません。友達は多いのですが、小学校から付き合いが続き、「言いたいことが言えない」「友達、あるいは「お前」しか話せない話のできる「友達」は「友達」ではない」「友達は2人だけです。この点を踏まえて、今の子供達における「友達関係」の現状を、私の個人的な視点で述べてみたいと思います。

最近 SNS が広がる中で「友達関係」にも変化が見られます。その弊害で、いわゆる「常」友達と繋がっていないと不安になる子供達が増えているように気がします。明治大学文学部教授の藤原孝志氏は、この状態をこう呼びます。

「友だちがない」と不安だ症候群「ニッポンの取り回し」既読スルー」という言葉があります。返事が無いから友達じゃないと考える自身がナンセンスです。本当の友達とは、返事が無い時「相手や思いやり」「忙しかったらいいよ」とか「携帯から離れてるよ」とか「考えの違う問題に解決しますよ」とか「お互い互いの信頼関係があるのよ」。逆「精神的な幼少」「思」のあふれ友達、このあふれ相手をおまははかあふれができません。常「グループをハハ、そのグループから距離をわななな様にしてグループについて、グループメンバーに嫌われないように自分の意思と関係ないグループのメンバーと距離を置いています。このあふれ関係は友達関係とは全く別な「関係」です。本当の友達関係は「互いに互いの信頼関係」です。このあふれ関係は「友達関係」ではなく「関係」です。大抵の場合「このあふれ友達の特徴」は「互いのあふれがなくなる」「精神的に弱」「正義も真面目をバカにする」「互いのあふれがなくなる」「等が挙げられます。そして「このあふれグループは低いレベルでの仲間意識」が生まれ、自分達に都合の悪いことも考え、風土を懸念してしまっています。それは社会的に非難に思われる行動です。それゆえに社会的な成熟は遅く、精神的に大人になれません。私達の経験則からすれば、このあふれな子供達は「一般社会に出る前」「周囲から仲間」を思っていた人達がいなくなると思います。具体的な表現をすれば、例として中学校で友達ではない、小学校での立場が逆転してしまっている等です。真面目に正義を貫いた子供達が精神的に成熟してしまったり「コミュニケーションの本質はフエンス・トゥ・フエンス、即ち直接のコミュニケーションを重視するようになる」です。そして SNS は単なる連絡手段として存在するものになり、冷静且つ効果的活用が求められるものになります。直接のコミュニケーションは親友を作ることができなくなり、長い間連絡が取れない「友達」も同じように接するものになり、あふれがなくなるものになります。1年もののあふれがなくなると、話題は充実しない言葉遣いで「戻ります」。それは何故なのかわかりません。言葉の説明が難しいですが、私は「感覚的」の経験則です。

シリーズ「自分を語る」#130
平成27年末、南ヶ丘小学校4年目の大晦日、自分を振り返る私澤田、今年も色々ありました。平成27年は、職業の病気で3つのクラスのサポーターを行いました。3年生2クラス、4年生1クラスです。この学校のサポーターも私にとっては楽しい時間でしたが、学校にとっては非常事態です。当時の校長先生教頭先生は病氣療養の長期化を懸念して、臨時採用の先生を探していたようですが、中々見つからなかつたのでした。時期的なものもあつたので、臨時採用の先生は2人見つかりました。3年生の1クラスは、私が年度末まで担任代行を行いました。私は一言も学級での生活を大いに楽しみ、且つ担任の先生が心配せぬように、千羽鶴を作ったり、メッセージを書いたりして、学級経営を進めました。新年度には復帰するまで連絡があり、子供達も私も心から嬉しかったのを覚えています。

この時期、年度末だったからなのかもしれませんが、象徴的なことが起つた時間でした。当時私の双子の息子たちが中心で、自転車通学を止めてしまつた。2月のあつた朝、息子たちは野球の朝練(朝7)があつたため、朝早く学校に行きました。私が出勤するのと同じタイミングで、それから午前9時の頃だったと思います。息子が交通事故に遭つたのです。私にその連絡があつたのは夕方でしたので、まずはパニックにしました。朝から連絡を切つた私の父は大慌てでした。打撲と切り傷があり、最悪だったのは加害者の男性が、バイクでその場から立ち去つたのです。新聞には「ひき逃げ事件」と出ていました。大きな事故ではなかったのですが、その後は妻や父、本人は何度やなく警察に行つて調書作成に協力してしまつた。たまたま、私の教子の子目那様も警察官で、私が相談しますと、色々と情報をくれました。しかし、この現場には息子も気が動転して、バイクの種類やナンバーまで覚えておらず、捜査に阻害された上に、まづ諦めておいた数か月後のことです。熊本北警察署からの連絡が来ました。その当時は私と熊尾第一小に勤務しています。() 被疑者が逮捕されました。ホッと安心したのと同時に、警察の事実も判明しました。逮捕された場所は新瀬町でした。回でも職を転々とになり、更に窃盗犯繰り返したから全国を渡り歩いてきたものなのです。その時の逮捕容疑は確か窃盗だったと思います。取り調べの中で、熊本に居たことが内容の中に出たので、その話の中で、息子の交通事故について供述したことがあつた。「蜘蛛の糸」のようなお話ですね。被疑者にも良心が残つていて、それが息子のけがを心配していたのかまじまじと聞かれました。複雑な心境ではあつたが、事件が解決して「安心」でした。当時、テレビで新聞でも取り上げられていました。

平成27年度末、またまた、異動の時期です。はい、校長室へ。

「ごいよお別れの時が来ましたが、おめでとうございませう。1米献金です。」

あの程度予想していたことですが、行き先が気になります。一体何処へ、

「ごいよお別れの時が来ましたが、おめでとうございませう。1米献金です。」

「ごいよお別れの時が来ましたが、おめでとうございませう。1米献金です。」

※ 「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。(「みんなの居場所」への掲載の可・不可)